

【ラテン語】

読書案内

ラテン文学の翻訳は、岩波文庫、平凡社ライブラリー、ちくま学芸文庫、講談社学術文庫、国文社（叢書アレクサンドリア図書館）京都大学学術出版会（西洋古典叢書）などから多数公刊されています。まずは図書館で手に取ってみて、興味のあるものから読んでみてください。以下に紹介したのは、ラテン語の歴史や文法についての入門書です。

- ・逸身喜一郎『ラテン語のはなし 通読できるラテン文法』大修館書店 2000年

ラテン語の名句・名文が紹介され、その背景にある文化や歴史にも触れられる。エッセイ的な楽しく巧みな文章を読み進むうち、ラテン語文法に魅かれていくかもしれない。

- ・小林標『ラテン語の世界 ローマが残した無限の遺産』中公新書 2006年

ラテン語の歴史やラテン文学について、さらに、ラテン語が現代に至るまでどのように欧米文化に影響を与えてきたか、ラテン語の意義が十二分に強調されつつ、例とともに説明されている。

- ・ジャクリーヌ・ダンジェル著、遠山一郎・高田大介訳『ラテン語の歴史』白水社 2001年

著作の前半で、ラテン語の誕生から発展、衰退、ロマンス諸語への移行まで、時代ごとにまとめられている。後半はラテン語の音体系、書記法、文法について述べられており、ラテン語文法に触れた経験がないと、難しく感じるかもしれない。